

# 米生産者の皆様へ

宇都宮農業協同組合

令和3年産において皆さまのご協力のもと作付転換を実施しましたが、令和4年産の主食用米の生産においても、更に厳しい状況となっております。引き続き「作付参考値（面積）」に基づく『需要に応じた生産（生産調整）』にご理解ご協力をお願いします。

## 「需要に応じた生産」への取り組み

令和4年産以降も農業再生協議会が、需要動向を踏まえこれまでと同様に、個人ごとに「主食用米の作付参考値（面積）」を提示（2月）します。

「作付参考値」を踏まえ水田フル活用に取り組み、麦・大豆の生産拡大や需要のある飼料用米や加工用米・備蓄米等への転換を図り、計画的な生産に取り組みましょう。

## 令和3年6月末の在庫量と米価の関係

民間在庫量※及び相対取引価格（全銘柄平均）（単位：トン、円／玄米60kg）

年度・年産	H28	H29	H30	R元	R2	R3
在庫量	<b>204万</b>	199万	190万	189万	200万	<b>219万</b>
取引価格	<b>14,307</b>	15,595	15,688	15,735	15,642	<b>14,225</b>

◆民間在庫量が200万トンを超えると米価が下落（低下）すると言われています。

★適正な在庫を保ち、米価を安定されるためには、引き続き「需要に応じた生産（生産調整）」に取り組むことが重要です！

## このまま過剰作付が続くと・・・

長引く新型コロナウイルス感染症の影響により、外食・インバウンド需要が減退した結果、民間在庫量は昨年度同月比19万トンの大幅な増加となりました。

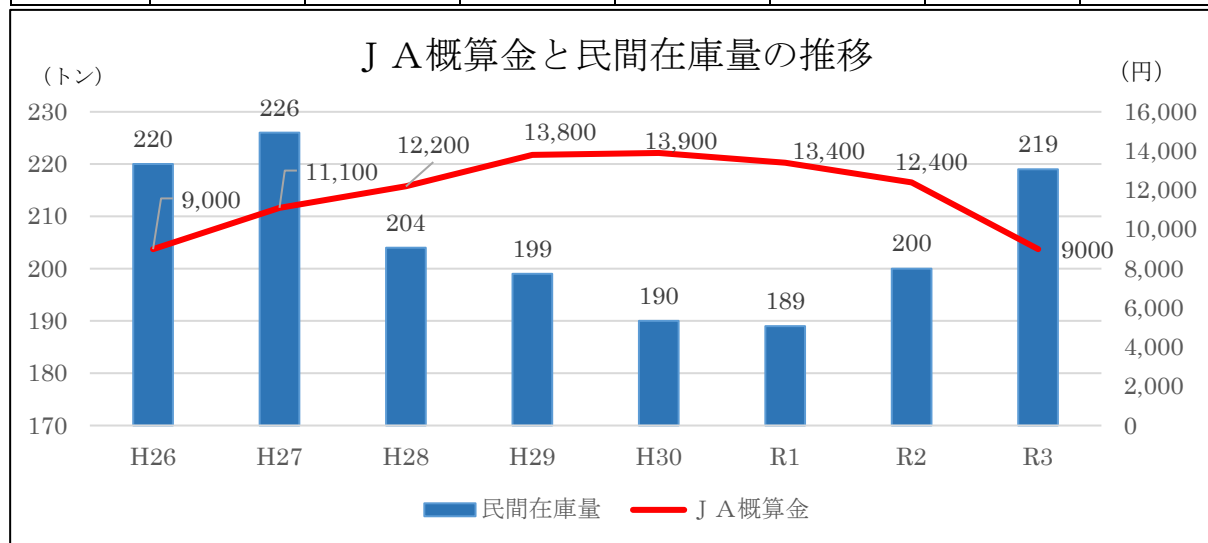
その結果、栃木県におけるJA概算金は平成26年度同様の**9,000円**まで下落する結果となりました。

令和3年産の作付では過去に無いほどの飼料用米等への作付転換が図られたものの、新型コロナウイルス感染症の収束がまだ見通せないため、令和4年産では更なる作付転換が求められています。

※米の消費量は毎年全国で10万トン減少しています！

◆JA概算金+追加払い（コシヒカリ）及び民間在庫量の推移◆（単位：円、万トン）

H26	H27	H28	H29	H30	R元	R2	R3
<b>9,000</b>	11,100	12,200	13,800	13,900	13,400	12,400	<b>9,000</b>
<b>220</b>	<b>226</b>	<b>204</b>	199	190	189	<b>200</b>	<b>219</b>



## JAうつのみやの取り組み

米の需給安定及び水田フル活用を図るため、飼料用米や麦・大豆を中心とした生産拡大を推進します。また、担い手の育成・確保や米の生産維持・向上対策（省力化・低コスト技術の普及）、機械化一貫体系等による露地野菜の推進、米の消費拡大対策など、「農業者の所得増大」「農業生産の拡大」「地域の活性化」に引き続き取り組んでまいります。

是非、趣旨をご理解頂き、継続した「需要に応じた生産」への取り組みにご協力をお願いいたします。